

プロセシアはドクターと患者さんの気持ちのギャップを埋めてくれる TC(トリートメントコーディネーター)のような存在です。

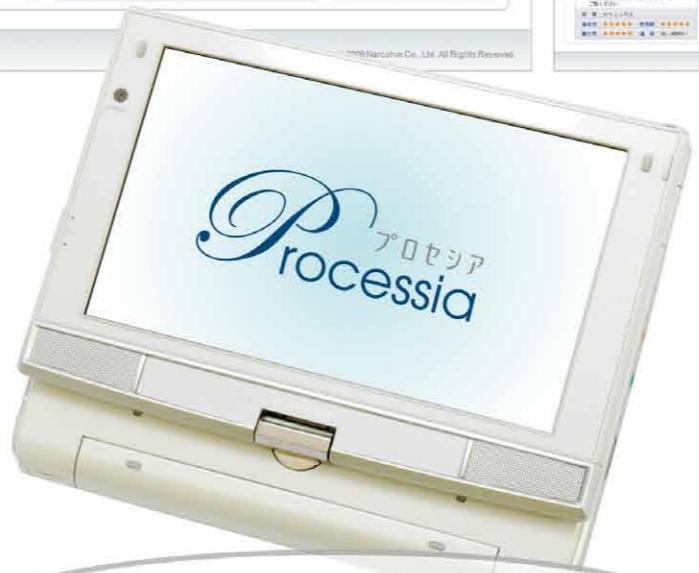
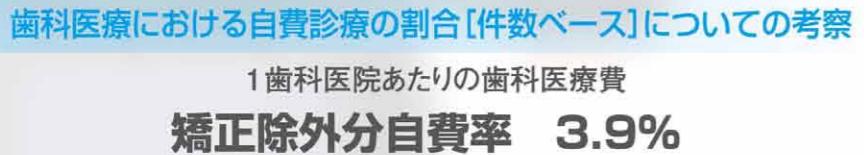
Doctor's Opinion

- [1] 忙しくて治療方法を説明する時間がとれない。
- [2] 高額な治療を勧めるのに抵抗感を感じる。



Patient's Opinion

- [1] どのような治療方法があるのかきちんと説明してほしい。
- [2] いいものなら検討したいが、歯科医師には言いにくい。



気付いていても埋められないギャップ。
プロセシアがこれらの隔たりを優しくサポート

【資料：『アポロニア21』2009.3(日本歯科新聞社)】

生活者アンケート

(2009年1月13～17日実施のインターネットサーチによる。回答数662)

Q. 保険外の治療を希望しますか?

[希望する…14%]

患者さんに自分で操作してもらう場合

診査・診断の後、患者さんにプロセシアをお渡しします。
患者さんが自分に合った補綴物を探す事ができ、また医院ではその回答や結果を知ることができるので次回来院時に的確なアプローチが可能です。



1. 診査・診断



2. プロセシアを渡す

診査・診断の後、治療する部位を患者さんにお知らせします。



5. 治療計画

説明用模型などを使用して説明するとより効果的に説明が出来ます。

ユニットPCでスタッフと一緒に操作する場合

カウンセリングルームやユニットPCでスタッフが、患者さんと一緒にプロセシアを操作します。補足的な情報も交えて説明するので患者さんも理解しやすく、またスタッフがTCの役割を担うようになります。



1. 診査・診断



2. プロセシアでの説明

診査・診断の後、治療する部位を入力します。

先生や衛生士さんが患者さんと一緒にプロセシアの画面を見ながら質問に答えていきます。



3. 結果表示・印刷

患者さんにより導き出された結果を簡単に説明してあげます。



4. 相談・検討

選択した治療方法以外も印刷されるので患者さんは自宅で家族と相談できます。



5. 治療計画

説明用模型などを使用して説明するとより効果的に説明が出来ます。



3. 操作・説明・印刷



4. 結果確認

質問にそって回答してもらいます。導きだされた結果の説明を確認し、必要であれば印刷を行います。

患者さんの選択した情報を管理画面で確認することができます。